

## 鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会 会議概要

- 日 時 令和7年12月24日（水） 10時00分から12時05分まで
- 場 所 鶴岡市役所6階大会議室
- 出 席 者 別紙委員名簿のとおり（委員14名中10名出席）
  - 出席委員 浅野憲周委員、市川至音委員、佐藤豊継委員、瀬尾利加子委員、高谷時彦委員、難波志津香委員、森木三穂委員、大和匡輔委員、渡邊一弥委員、渡部徹委員
  - 欠席委員 菅原剛委員、鈴木淳士委員、ドルセ・クリステル委員、屋代高志委員
- 傍 聽 者 なし
- 協 議 (I) 総合計画後期基本計画の進行管理について
- 報 告 (I) 鶴岡市デジタル田園都市構想総合戦略について（人口ビジョンの改定について）
- 概 要

### 普及啓発について

#### （委員）

- ・総合計画の普及・啓発について、市民への一方通行で情報を伝えるという方法では限界がある。受け手が自分事として捉え、その内容を理解して納得しないとなかなか伝わらない。市役所が伝える側、市民が受ける側という形を変えていくことが大事。例えば、高校で防災教育を行う際に、講話を聞いた生徒が中学校で出前授業を行うなど、行政職員もこれから人数が減っていく中で、伝える側を広げていくなど工夫をしていくと良い。

#### （委員）

- ・ワークショップは各校1回の実施となっているが、取り組む側も継続的に考えられるようにすると良いと感じた。例えば年間を通じて探究活動をやっている高校で、市の基本計画と絡む内容でやっていくと学ぶ機会が増えていいと思う。

#### （委員）

- ・自分の子どもが小学校低学年であり、担任の先生が総合計画後期基本計画のPR版を配布して、どういう鶴岡にしたいか、という授業をやったと聞いた。先生の裁量で取り入れられることもあるが、漢字が読めないこともあるので、デジタル版だけでも良いので振り仮名があると小学校の先生もやりやすいと感じた。
- ・ワークショップでは色々な意見が出るが、発信したきりでなく、何かひとつでも成果として実現できれば、自分たちのアイデアが届くんだという実感がわくと思う。自分の意見が叶う経験は、もっと意見が出てくるきっかけになると思うので、次の計画などに繋げてもらいたい。

(委員)

- ・習字や交通安全のスローガンの表彰のような、自分が考えて作ったものが他の人に見られたり、他の人を動かしたりすることがあれば、自分の発言や行動に意味があるという意識に繋がっていくと思う。ワークショップ自体はいいと思うが、それが一石二鳥三鳥になるようなプラットフォームになっていくと良い。

→ (事務局)

- ・これまで総合計画をワークショップ等で広げていくという取組は行っていなかった。第2次鶴岡市総合計画を作った段階では、「計画を作った」ということで終わってしまっていると市の内部や委員の方々からご意見をいただき、我々もその点を改善していくというのが目的。
- ・そして、これから鶴岡を担う中学生、高校生に市の取組などを伝えていくという機会がなかったため、まずは普及していくことが重要であると考えており、これまでワークショップを行ってきた。成熟した段階では受け手が自分事として捉えるということが重要な観点だと思うので、子ども議会等、他自治体の先進事例も踏まえつつ今後の計画を検討していきたい。

(委員)

- ・若い人や子どもたちの意見や提案をコンテスト形式で拾い上げるのは、モチベーションを上げるという点で非常に効果的だと思う。今後の第3次総合計画の策定の中で若い人の意見を拾い上げるシステムがあれば、その姿勢は高く評価されるのではないか。すべて反映できないにしても、いい提案については、そのエッセンスだけでも政策や計画に取り入れてもらえたと思う。

(委員)

- ・ワークショップの進め方について、いわゆるナンバースクールで実施していないという点が気になった。生活課題という視点で考えると、旧鶴岡市内の方が課題が多いのではないか。その中の子どもたちがどう考えているかということは、総合計画の中で抑えた方がいいと思う。
- ・市民の方々の課題が一つの部署では解決できず、横断的に様々な部署が関わってくると思う。そういう観点から、横断的な取組を組織的にやっているか、計画がどのように市の中で共有されているのか。

→ (事務局)

- ・ワークショップ実施については、カリキュラムが決まる前の段階で市内小中高校の全校に照会しており、今年度は手が挙がったのが実施した4校となっている。我々としても市内の方々から貴重な意見をいただきたいと考えているので、さらに市内の中学校、高校に働きかけをしていきたい。
- ・総合計画の内部での共有については、策定の段階で各専門の委員会を設置し、それぞれの部署から事務局になってもらい、それぞれ作り上げたものを合わせて総合計画としてまとめている。また、後期基本計画については、予算編成や行財政改革を含め、総合計画のどの部分を推進するのか、評価するのかという観点を取り入れ、庁内で共有している。

(委員)

- ・「地域コミュニティ学」などの授業がある高専では、地域や伝統文化について学ぶということを時間をかけてやっているので、このワークショップも取り入れやすいという背景がある。また、クラスや学年の人数が少ない学

校では調整しやすく、様々なプログラムを取り入れやすい。小規模校でないと調整しづらい面もあり、その点は教育委員会が入っていくのが良いのではないか。

(委員)

- ・ワークショップは、致道館の教える教え合い学び合う、中学生が小学生に教えていくようなアウトプットの仕組みがないと、授業のカリキュラムで終わってしまう。松ヶ岡にも色々な小学校、中学校が来るようになつたが、単発で終わってしまう。先生個人ではなく、教育委員会として鶴岡の教育の中でやつていくような仕組みが必要。

取組み状況・今後の方向性について

(委員)

- ・転勤者の薬剤師の方から、鶴岡の地域医療が素晴らしいということを理由に移住した、という話を聞いた。多職種連携という薬剤師と看護師とケアマネと医師等が一緒になって患者を診るという取組が、鶴岡では大変進んでおり、全国的にも有名なので、自分の知識やスキルを生かせると思ったとのこと。転勤者から鶴岡に残ってもらつたり、戻ってきてもらう人を広げられないか。
- ・転勤者は繋がりがあまりなく、家に帰つて一人で食事をとる孤食が大きな問題。40代50代の転勤者の方に地域へ出てもらつたり、関係人口としてつながれば、医療の分野でのつながりができるのではないか。

→ (事務局)

- ・最近では関係人口や二地域居住という話が出てきており、転勤で鶴岡に来てからもまずは関係人口になつていただき、戻つた後は鶴岡のものを取り寄せてもらうような形が入りやすいのではないかと思っている。ゆくゆくは老後などに鶴岡へ来てもらうのが現実的かと考えており、国でも施策が検討されているので、うまくリンクできればと思う。
- ・転勤で来られた方に対する直接的な施策はないが、移住者向けの交流会などには転勤で来られた方も参加され良い形態となっている。冬道の講習会があり、その後に芋煮を食べるということもあるので、そのような入口もあると考えている。

(委員)

- ・サイエンスパークなどに転勤で来られる方と接点があるが、あまり鶴岡の人とコミュニケーションをとる機会がないということを聞いている。数年間住んでいても関わりがなく鶴岡をあまり知らずに帰つてしまい、つながりが欲しかったという話を聞いた。同じような境遇の人々を巻き込んでいけばまちおこしに貢献いただける可能性もあるのではないか。致道ライブラリーも拠点になりうるのではないかと考えている。

→ (事務局)

- ・サイエンスパーク内の交流は本市含め定期的にやつていただいているが、そこから一步出たところの市民とのかかわりが重要であると思う。致道ライブラリーの活用も、いただいた意見を参考にしたい。

(委員)

- ・慶應を誘致する際に、様々な業種や若手経営者が集まる定期的な交流があったが、現在は単発になっているような気がする。以前は市職員も含め交流していたこともあり、市がもっとやれることがあると思う。
- ・KPIでC評価の部分について、限られた予算の中でどうしていくのか。このまま10年間同じことをやるのではなく、事業廃止など見直すことをやらなければならない。
- ・アメリカの雑誌で、山形県が行くべき場所に選ばれている。昨年は岩手県で、岩手県はオーバーツーリズムになっている。何年か先ではなく、短い間にどれだけ県と一緒に呼び込めるかなど、始まってから動くのでは遅いと思う。スピード感をもって企画やアクションを起こせるような仕組みができると良い。

→ (事務局)

- ・今年度からスタートしたガストロノミックイノベーション事業については、山形大学、慶應大学と一緒に地域の人を巻き込んでいこうということで、密な連携をしながら進めている。来年は先端研が25周年の節目の年ということもあります、一層連携を密にしていく。
- ・KPIについては今後整理を行っていくが、このC評価をこのままにしていくというのではいけないので、内部で連携し、A評価に持っていく努力していく。
- ・来年は羽黒山午年御縁年、JRの重点共創キャンペーン、加茂水族館のリニューアルオープンといった3つの大きなキャンペーンがある。また、インバウンドに関しては、今年度アドベンチャーウィークが東北で初開催され、また10月にナショナルジオグラフィックで山形が紹介され、欧米系の観光客が増えていると聞いている。そういう方々が紹介された観光地に行けるよう、二次交通については来年度しっかり取り組んでいきたい。

(委員)

- ・社会基盤専門委員会で議論していることに関するKPIに、例えば市街化区域の人口の増加を評価するKPIがあり、B評価となっている。1つの数字にも旧鶴岡市の地域と旧町村地域とで様々な意味、多面的要素があるということを伝えることができれば、一般の方が興味を持つきっかけになるかと思う。公共交通の利用状況も数字としては良くなっているが、一方でバスに乗らざるを得ない人が多くいるという意味になる。そういう実態も含めて立体的な伝え方ができると良い。

→ (事務局)

- ・数値的な部分は推定のところがあるが、この中心市街地に居住する人口が占める割合が増加しているという傾向の中には、市の人口は全体的に減っているが、茅原の区画整理や空き家活用の成果を意味しているものと捉えている。こうした観点は今後のまちづくりにいかせるとと思う。
- ・数値の背景や、そこにある課題が何なのかといったところについて、きちんと説明していくことが重要。ワークショップ等を含め、周知していく段階においては、単に数字がこうなったということだけでは議論が深まらないと思うので、そのあたりも検討してまいりたい。

(委員)

- ・暮らしと福祉についての記載があるが、「高齢者」の視点が弱いと感じた。また、今後の施策の方向性として、「住民が住み慣れた安全・安心・健康で～」とあり、今の人口動態も含め、医療福祉だけではなく、若者から高齢者まで安心して暮らせるような地域づくりということを前面に出した方が、地域住民も安心するのではないか。

→ (事務局)

- ・今後一層人口減少が進んでいく中で、どうやって我々が暮らしていけるのかというデザインが、次の総合計画では重要な要素になるとを考えている。
- ・高齢化が進んでいく中で、やはり地域の支え合い活動が重要であると考えている。今後、地域住民の方々が高齢者の生活課題を自分事として捉えていただき、ボランティアでそういった生活支援サービスを行うことが重要である。

(委員)

- ・「トータル・システム」の取組について、丁寧な調整を終えて予算を作っていると思うが、地域の中で困ったこと、例えば鳥獣や雪の被害など、柔軟に各庁舎の裁量に任せて使える予算があればよいと思う。また、地域の振興に活かしたり、子どもたちの郷土愛や地域愛をはぐくむ事業に活かしたりできれば良いと思う。
- ・地域課題をすでに自分事として捉えている地域住民と庁舎の職員が協力して取り組むことで、市と住民との距離が近くなり、今より住民が安心して暮らし、子どもたちをはぐくむ環境になると思う。
- ・庁舎の職員の配置について。地域づくりや青少年事業などに、市の職員と連携して継続的に取り組んでいるが、人事異動のたびに職員がとても苦労している様子を見ている。お互いに事業をよりよく進められるよう、地域性をよく理解している職員が担当になったり、少し長く担当するなど、仕組みを工夫してほしい。

→ (事務局)

- ・予算については、各分野で議会での議決を経て使途が決められているもの。一方、地域庁舎に限らず本庁舎においても、年度の途中で学校や施設が壊れた、道路が壊れたなど、予定していないことが起きることもあり、予算流用や金額が大きくなれば補正予算を議会に提案するなど、不測の事態については柔軟に対応できるような運用を行っている。
- ・職員の配置について、地域の課題を共有しても2年や3年で異動してしまうという声も聞いている。市役所には多くの部署があり、専門職として採用され退職までほぼ同じような部署ということはあるが、大半の事務系職員については様々な部署で経験を積み、いわゆるジェネラリストとして色々なことに対応できるよう、ローテーションで配置を変え、成長してもらうという考え方である。
- ・専門職とはいかないまでも、特定の分野で深く掘り下げて能力を高めていく職員も当然求められるので、職員本人の、この分野で長く頑張りたいとの希望なども聞きながら配置をしている。

(委員)

- ・総合計画後期基本計画の推進にあたっての視点ということで記載があり、7つの施策の大綱、7つの未来創造のプロジェクト、5つの加速化アクションがそれぞれあり、今後の6つの施策の方向性が出てきた。今の計画に位置付けられている視点は変わるものではないと思うが、これら様々な視点をもう少しわかりやすく整理すると良い。
- ・また、例えば「総合的なデジタル化の推進」とあるが、どのようなデジタル化なのか見えてこない。例えば職員の業務効率化なのか、市民の利便性や生活の向上なのか、デジタル産業を育てていくためのデジタル化なのか、様々なデジタル化の目的があるので、ブレイクダウンした視点があれば方向性が市民にも伝わりやすいと思うので、時間をかけて見直していただきたい。

→ (事務局)

- ・市長公約の中でも総合計画の見直しという内容を掲げていた。一方、総合計画は10年間の市と市民との約束事であるので、計画期間である令和10年度までは現行の計画でやっていくことになる。その際、市長が掲げる政策との整合性を図りながら進めていくことが重要であると思っている。計画の中に記載されている内容と市長の施策の方向性を整理し、進捗管理をしていくということになるが、分類の仕方がそれぞれの視点に分かれているということは我々も承知しているところであるので、次期計画においてはもう少しすっきりした形に整理していきたい。
- ・デジタル化については、委員からご指摘があったとおり、どのような形で、という点もそうだが、次期総合計画を作っていく際にはある種のキーワードになっていく視点だと思うので、もう少し深堀りして検討してまいりたい。

(委員)

- ・資料には、なぜ6つの施策の方向性のうち1と4の施策しか出てこないのか。他の項目については今後検討して、何か関連を結びつけるということか。また、6の「ハラスメントのない、希望をもって暮らせるまちづくり」について、市役所からということなのか、民間企業を含めた他の機関もということなのか。ハラスメントの扱いは難しいと思う。
- ・総合計画とは直接関係しないが、図書館について。図書館の基本構想はストップしたが、総合計画を進める時にハブになるような場所にするという方向性で構想を策定した。その部分を含め見直すのであれば、考えてほしい。

→ (事務局)

- ・施策についてはわかりやすい例を具体的に示したもので、こういった内容で他の事業も整理していくという参考例を示させていただいた。
- ・図書館について、これまで色々意見を重ねてきた経過もあるので、それぞれの委員の意見も伺っている。現状としては、公共施設の更新が相当重なってきており、全体の公共施設の見直しを、歳入にあった歳出という観点で整理を行っているところ。その中で図書館がどのタイミングで更新していくのが良いのかも含め改めて検討していくことになるが、これまで懇話会等でいただいた意見は、建設年度がいつになったとしても非常に重要な観点だと思うので、その意見も大切にしていきたい。
- ・ハラスメントについて、一つの考え方として、市役所の中の課題としてのハラスメントとした場合はパワハラ、セクハラ、カスハラへの対応を考えられるが、ここでは狭義のハラスメントというより、障害のある方や外国人への差別、地域間・世代間ギャップや家庭や男女の役割への固定観念など、広い意味でそういうことがない、寛容で多様性のある包摂な社会というのが、住みやすく人も呼び込めるのではないかと思う。その中で、行政として何ができるのか、というのが一つの切り口だと考えている。

(委員)

- ・鶴岡イノベーションプログラムがちょうど終わったが、とても良い取組。起業したい方やフリーランスの方々が集まっていて、だんだんコミュニティ化され、出会い始めている。例えば平日の夜や土日開催となれば、ほとんど予算を変えない形で、サイエンスパークにいるこういったことに興味がある方を巻き込んで、議論できるのではないかと思う。また、イノベーションプログラムの卒業生が事務局に入り、卒業生から大学生に、大学生から

高校生にといった、継承されていく仕組みができればと思う。

- ・鶴岡らしい教育という部分でアントレプレナーシップ教育をやる中で、教科書のような形で総合計画のPR版を使えば、実際に自分の事業化を考えたときに参考書として意味を持って読んでもらえるのではないかと思う。市立の中学校や小学校であれば教育委員会と共同でカリキュラムを組み立てる等ができるのではないか。
- ・少人数の議論は活性化しやすく活発になりやすいと思っており、この委員会もいい機会ではあるが、より少人数のグループでディスカッションできれば議論の質も上がるのではないかと思う。
- ・二次交通について、中心市街地の課題は移動手段だと聞いている。特に夜になると、車を持たない観光客はタクシーが捕まらず、駅前に泊まっている場合はなかなか来られないという話も聞く。鶴岡には良いものがたくさんあるが分散しており、例えば、ライドシェアの特区に手を挙げてみるなど、ここに来れば簡単に移動できるということが魅力につながるのではないか。より簡易的なもので言えばレンタサイクルがあるが、長時間利用できるようにしたり、駐輪ポイントを増やしたりすれば、車を持っていない方も、タクシーが無くとも自転車で中心市街地に移動できるようになると思う。

→ (事務局)

- ・イノベーションプログラムの件について、日程等だけでできることもあるということはその通りかと思うので、参考にさせていただい。
- ・委員会の持ち方について、本日の委員会においてもキーワードとなるような部分は出ていると思うので、どのように活かしていくかという観点は非常に重要、改めて整理していきたい。
- ・タクシー事業者が取り組むライドシェアについては東北運輸局から令和7年12月18日付で許可が下りたと聞いている。事業者からは運行の形式について試行錯誤しているという状況であって、間もなく運行を開始するが、改めて市にも連絡いただくこととなっている。正式に運行することとなれば、市民に周知していく。

(委員)

- ・施策の大綱の枠組みについて。「施策の大綱Ⅰ 暮らしと防災」にて旧二小跡地の活用が記載されており、部署の整理でこうなっているのだと思うが、これも見直しをする機会が必要だと思う。社会基盤専門委員会でも町並みと下水道の整備を両方議論しているが、こういったものも仕組みを分けられたら良いと思う。
- ・図書館の議論についても、図書館のあり方や立地場所だけではなく、中心市街地にも銀座や山王、駅前地区があり、それぞれのイメージと図書館を組み合わせるとどういうタイプの図書館がありうるかなど、図書館も現在多様化しており、うまく連動した一体的な議論ができると良い。

→ (事務局)

- ・施策の大綱については、市長の進める方向性とも整合性を図りながら分類していきたい。現在様々な観点から振り分けられている部分については、計画を見直す際にすっきりした形にしていきたい。
- ・図書館の関係については、中心市街地活性化区域の中とは決まっているが、具体的な場所までは決まってない。色々な意見があるので、本日いただいた意見も参考にしていきたい。

以上